

令和元年度第3回足立区区民評価委員会 会議録

会 議 名	令和元年度第3回足立区区民評価委員会
事 務 局	政策経営部政策経営課
開催年月日	令和元年8月27日(火)
開催時間	午前9時30分開会～午前10時57分閉会
開催場所	足立区役所8階 特別会議室
出席者	区民評価委員会委員(16名) 田中隆一会長、石阪督規副会長、藤後悦子委員、藤本かおり委員、 中島明子委員、藤澤一馬委員、明尾陽子委員、庄子恵美委員、 遠藤薫委員、松田郁子委員、三石美鶴委員、寺井公子委員、 長谷川浩一委員、田島のぞみ委員、大竹恵美子委員、村田文雄委員 区側出席者 政策経営部長、政策経営課長、財政課長、政策経営担当(2名)、 財政担当(2名)
欠席者	福田大輔委員
会議次第	別紙のとおり
資料	令和元年度(平成30年度事業実施分)足立区区民評価委員会報告書(案) 令和元年度 区民評価委員会による表彰について
その他	

(審議経過)

○事務局(政策経営課長) おはようございます。

定刻となりましたので、ただいまより令和元年度第3回足立区区民評価委員会を開催させていただきます。

私は本日の司会を務めます政策経営課長の田ヶ谷でございます。どうぞよろしく願いいたします。前回は交通の支障があつて、北千住から歩いていただいたり、青井から歩いていただいたり、大変ありがとうございました。助かりました。

本日は前回に引き続きまして、区民評価委員会報告書の内容の検討となります。本日の会議をもって内容を固めてまいりますので、ご協力のほうをお願いいたします。

それでは、早速でございますが、本日の議事進行を田中会長をお願いしたいと思います。田中会長、よろしく願いいたします。○田中会長 改めまして、おはようございます。

本日の委員会を始めたいと思います。本日の内容は、今ご説明がありましたように、今年度の足立区区民評価委員会の報告書をまとめていくという作業でございます。前回の全体会で皆さんにいろいろとご議論いただいた点、今日事務局のほうで取りまとめて、後ほどご説明いただけるということでございますけれども、9月9日に、僭越ではございますが、私のほうから区長に対して答申をさせていただく予定となっております。ですので、本日の会議を最後の検討会議とできればと考えておりますので、ご協力のほど、どうぞよろしく願いいたします。

では、早速ですが、次第に沿って進めてまいります。区民評価委員会報告書(案)について、前回ご意見のあった部分の修正を事務

局からご説明をお願いいたします。

○事務局(政策経営担当係長) おはようございます。では、事務局の政策経営課の小村からご説明をさせていただきます。お手元の報告書(案)をご覧ください。私のほうで、前回の会議で何点かご指摘をいただいた部分がございますので、その点を振り返りといひますか、確認をさせていただければと思ひます。主な修正点につきまして、口頭でのご説明になりますけれども、ご了承のほどお願いいたします。

それでは、ご説明をさせていただきます。では、報告書(案)をまず1枚めくっていただきまして、最初の冒頭、「報告にあたって」につきましては、後ほど田中会長からご説明をいただく時間を設けておりますので、その際ご議論をお願いできればと思ひております。

ページをめくっていただきまして、前回ご指摘をいただいた部分、3ページをお開きください。3ページの行政評価の概要のページの一番下の図でございます。こちらは村田委員からご指摘をいただいたかと思うのですが、一番下の図の一般事務事業の評価事業数を、こちらのページは令和元年度の評価について記載している部分になりますので、実際に評価した事業数のほうがいいのではないかとご指摘をいただいて、確かにそのとおりというところで事業数を変更させていただいております。庁内評価委員会につきましては今年度14事業ヒアリングしておりますので14事業、区民評価委員会につきましては、庁内評価ヒアリングをした中から11事業評価をしていただいておりますので、実際の数字に変更させていただいております。

1点、申しわけないのですが、今朝方見について気づいた点がございまして、修正をさせていただければと思ひますが、今申し上げ

た庁内評価委員会の一般事務事業のところの文章なんですけれども、「毎年全事業の3分の1を評価対象とし」とはあるんですが、「毎年」という文言を削ったほうがよろしいかなというところで事務局のほうから提案をさせていただきたいと思います。

理由としましては、こちらは令和元年度の評価のページになりますので、毎年14事業とは限らないもので、令和元年度は14事業というところで、この「毎年」という言葉は削ったほうが通るというところで削らせていただければと思っています。申しわけございません。お願いいたします。

続きまして、ページがかなり飛びますけれども、30ページをご覧ください。こちらの30ページのちょうど中ほどあたりになりますけれども、明尾委員からご指摘いただいたかと思うのですが、「No.46 商店街」というところの事業No.と事業名が誤った事業名が載っておりましたので、正しい事業名に修正をさせていただいております。こちらは修正後の文言になっております。

続きまして、ページを少し送っていただいて33ページになります。こちらはまちの分科会の遠藤先生から提言を書いていたところでございますけれども、これは修正前につきましては議論になりましたけれども、「よそ者」という言葉が入ってございました。前回「よそ者」という言葉については削るというところでご議論いただきましたので、「よそ者」という言葉は削らせていただいたのと、あと松田委員から、削るのであれば、「多様な人材」というところに括弧をつけるのはいかがかというご意見をいただきましたので、この辺、遠藤先生とも調整させていただいて、今ご提示させていただいたように上から4行目と7行目の「多様な人材」というところで文章を修正させていただ

ております。

報告書の一番最後のページでございます。77ページの用語の解説のところでございますけれども、こちらは田中会長からご指摘をいただきましたが、昨年度の報告書にこの用語があったけれども、今年度の報告書に変わったときに消えているといたしますか、記載がなくなっている用語はないのでしょうかというご指摘をいただきました。改めて事務局のほうで確認させていただきましたけれども、結論としましては、全ての事業が用語として記載が残っているというところを確認いたしましたので、用語については全てこのまま載せさせていただきたいと思っております。

ちなみになんですけれども、参考に幾つかご覧いただければと思うのですが、例えば3ページの行でいきますと5行目になりますけれども、用語解説に「PDCAのマネジメントサイクル」という用語が載っておりますので、いまは「*」の後にページ数が記載されておりませんが、実際の冊子になった場合、正しいページ数に直させていただきます

あともう一つ例としまして、22ページの下から2行目に「SNS」という用語がございますけれども、こういったところには「*」をして「用語の解説にあるよ」という注意書きをして用語解説のほうを見ていただけるような記載をさせていただいております。

その他多くの用語がございますけれども、こちらにつきましては、実際の重プロの事業の調書のほうに載っている文言等も多々ございますので、こちらについては全て事務局で確認させていただいておりますので、その点についてはご了承いただければと思います。最後きちんと「*」をつけて調整をさせていただきたいと思っております。

以上、大きなところ、前回ご指摘いただ

たところは以上になります。この後9月末に向けて冊子の製本作業、本にする作業を事務局のほうでしてまいりますけれども、最後、それに向けましては事務局のほうで読み合わせ等もして、誤字、脱字がないかですとか、てにをは等のレベルの修正をさせていただきます。その辺間違いがないように最後きちんとチェックしてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局からの説明は以上になります。

○田中会長 どうもありがとうございます。た。

以上の内容について特にご異議がなければ、このように進めてまいりたいと思うわけですが、特に今回修正していただいた箇所に関して何かお気づきの点があれば、この機会によろしく願いいたします。

○村田委員 一般事務事業見直しの村田と申します。本来でしたら前回お話ししておくべきだったんですが、どうも私は古い人間なもので、ペーパーでないという意味が通じないところが幾つかありますので、前回の分を持ち帰りましてざっと見たところ、何点か校正があるんじゃないかなという気がしたのでこれをお話しさせていただきますけれども、これは内容の変更ではないので事務局サイドでできる話だと思うんですが、一応意見という形で述べさせていただきます、採用するかしないかは事務局の判断で十分だと思います。

大きく分けて3点ありました。1つは、用語の解説に新たに加えてもらったほうがいい単語があったんじゃないかな。いわゆる区民視点で見た場合、我々の分科会ではどうしても単語自体がごく普通に入ってきてしまうんだけど、報告書を見た一般の区民では果たしてどういうことなのかなというのがあったような気がします。

それから、これは毎年といいますか、よく

ある話なんだけれども、片仮名語で日本語に置きかえられそうな単語があったのではないかなということ。

もう一つは、報告書として略語というか、略称というのかな、使われているんじゃないかなという気がしたんです。そういうことは、私も現役を離れて大分たっちゃっているんだけど、これはごく普通に使われているんですよというならば、あえてそれでもいいと思います。

具体的に述べさせていただきたいと思いますが、もし時間がなければ早目に切ります。

最初に1ページ目、「区民評価委員会の概要」、3の「評価の体制」の中で「施策体系である4つの視点(ひと 暮らし まち 行財政)」があるんだけど、ここはそのまま空欄であけておくんですか。それとも「・」が入るのか、それとも点が入るのか、そこを確認したかったんです。

あとはずっと飛ばしまして13ページ目です。これはひと分科会の話なんですけど、No.5の「発達支援児に対する事業の推進」の中で下から3行目ですけど、「チューリップシート」という言葉が出ていたんだけど、これは正直言って、何の言葉なのかなというので私はわからなかった。できれば用語解説に加えてもいいんじゃないかな。これはごく普通ですよというのならば、それで結構です。

それから、次のページ、14ページ目です。No.6「不登校対策支援事業」、その中の下から3行目、「まだまだ多い状況にあるので、そだち指導員、SC、別室登校」、「SC」という言葉、これを見れば私はスクールカウンセラーということはわかりますけれども、ほかの方はわかるんでしょうか。

それから、15ページ、次のところでは

No.10「こども未来創造館事業」で「昨年度と比較して、アウトリーチ」という言葉なんですけれども、「アウトリーチ」というのは正直言って私はどういうことを具体的に言っているんだかわかりませんでした。

次の16ページ、ひと分科会①で「ヒアリング時の説明の工夫」ということで「プレゼン」という言葉が使われているんですけども、これは「プレゼンテーション」の略だというのはわかりますけれども、今この「プレゼン」という言葉で通用するかどうか。このプレゼンにつきましては、まちと行財政分科会だったかな、そこではしっかりフルネームで「プレゼンテーション」という言葉で書かれているんですけども、このひと分科会では「プレゼン」という言葉で省略されているんですが、どんなものでしょうかということ。

それから、その下の②です。「広報の工夫として」というところで、「今回事前レク」という言葉を使っていますけれども、「レクリエーション」じゃないですね。「レクチャー」ですよ。でも、これを「事前レク」で十分に言葉が通じるということであればよろしいかと思います。

それから、ずっと行きますと、22ページ、(5)くらしと行財政分科会の提言で①の中で下から5行目です。「これまで足立区では、さまざまなアイデア」で「愛錠ロック」「がっちりロック」「ペンタゴン」それから「青パト」、何を言っているのかなと見当はつきませんが、ほかの方々は十分通じたんだろうかという気がしました。

それから、24ページ、No.49の「町会・自治会の活性化支援事業」の中で、中ほどです。「たとえば、多文化共生をミッションとする」という言葉、これで「多文化共生」という言葉で大体のことはわかりますけれども、ミッ

ションをするんだなということで、ちょっとどうかなということ。

それから、そのままずっと来て、何行目かして、「関連するNPO」云々というところがあって、「区の調整力・コーディネート力」というんですか、この調整力とコーディネート力との違いは一体何を言っているのかなという気がしました。あるいはダブっているのかもしれないし、それぞれの分科会の中で当然違いがあってこの言葉を並べているのかなという気もしております。

あとは、32ページ、③「協創」を支える区外の人材、ニーズを取り込む」というところで、下から5行目、「具体的には、インバウンドの流れを定着させる」というけれども、「インバウンド」というのは何を指しているのかなという気がしました。

一応雑駁でぱっと見てそこが気がついたので、あとは特にすらすらと読んでしまったというところがあります。以上の点は何かの言葉に置きかえられるなり、フルネームで言うなりできるのではないかなという気がしますので。これはさっき言いましたように、内容がどうのこうのという話じゃないのでここで討論する必要はないかと思いますので、事務局のほうで、いや、これは普通だよという判断があればよろしいかなという気がします。

以上です。

○田中会長 どうもありがとうございます。事務局のほうから何か。

○事務局（政策経営担当係長） 見ていただいたありがとうございます。幾つかいただいたので、一個一個見ていかないといけないんですけども、確かにおっしゃるとおり入れたほうがいいかなというところが多々見受けられましたので、もし村田委員がおっしゃったとおり、事務局に一任ということによろ

しければ、うちのほうで適切な言葉等も入れさせていただきたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

○田中会長 報告書を読みやすくするという意味では非常に重要なご指摘だと思いますので、できるだけ反映していただくということをお願いしたいんですが、その反映の仕方に関しては事務局に一任ということで皆さん、いかがでしょうか。大丈夫ですか。

では、そのようにしていただければと思います。よろしく申し上げます。

ほかにございますでしょうか。

済みません、私から1点確認ですけれども、最後の資料7のところを全てご確認いただいたということで、どうもありがとうございました。非常に細かいことで恐縮なんですけれども、全ての用語が評価調書も含めて出てきているということなんですけれども、評価調書のほうもそういう用語解説があるところには「※」とかをつけたりはされているということなんですか。

○事務局（政策経営担当係長） 例年そうなんですけれども、評価調書のほうにも先ほどと同じく「※」を入れさせていただいて、用語解説にありますよという目印をつけさせていただいております。

○田中会長 それならわかりやすいと思います。どうもありがとうございました。

○石阪副会長 済みません、この用語解説は、例えば足立区がつくった、「ペンタゴン作戦」もそうですし、「愛錠ロック」もそうなんですけれども、これを載せたほうがいいのか、それともむしろ足立区外でも通じるような一般的な用語だけを載せる形なのか、これは今までどうしていましたか。

○事務局（政策経営担当係長） こちらの用語につきましては一般的な部分なのかなとは思っているところがございます、「ペン

タゴン」といった語句の説明については、もし載せるのであれば、用語というよりは、先ほどの該当ページの下のほうに注意書きみたいな感じで載せるかなと。今お聞きしてすぐだったのであれですけれども、私個人的には担当としては、用語というよりは、足立区の独自にやっている事業のことなので、こういった事業ですみたくない説明を入れるのかなと思っております。そのような形で検討させていただきたいと思っております。

○田中会長 ほかにいかがでしょうか。

特にないようであれば、こちらの内容に、あと事務局一任で用語解説等を検討していただいたものというので内容を確定していきたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

それでは、この内容をもって確定と。用語解説を含めていくということで確定に持っていきたいと思っております。どうもありがとうございました。

次に、報告書（案）の冒頭の「報告にあたって」の部分について私からご説明をさせていただきます。前回の第2回の全体会におきまして皆さんからいろいろと、もちろん各事業の評価報告についてお伺いして、それからさまざまな提言と方向性についてご議論いただいたわけですけれども、前回の議論を受けまして、私のほうで今年度の評価活動を総括するような文章を「報告にあたって」というタイトルで作成させていただきました。既に文案に関しましては先日事務局から皆さんにもお送りさせていただいていると思っておりますけれども、お手元の資料にもございますように、1ページちょっとの文章となりました。できるだけ皆さんからいただいた提言等の文言を盛り込む形で、かつ今年度の評価活動をまとめる文章をつくるように努力をしてみたわけですけれども、うまくいっている

かどうかというのを皆さんにご議論いただければと思います。

念のためにここで私から読み上げさせていただきますので、その後に、どんな細かいことでも構いませんので、お気づきの点があれば忌憚のないご意見をよろしく願いたします。

それでは、読み上げさせていただきます。

報告にあたって

足立区区民評価委員会（以下、委員会という）の目的は、区の実施した事業や施策を区民目線から客観的に評価し、次年度以降の施策や区政経営に反映させることで、より良い足立の実現を目指すことである。平成 28 年 10 月に策定された足立区基本構想では、区民や民間企業、非政府・非営利組織や大学といった様々な主体と区政との協創により、活力ある足立を実現することが目指すべき将来像として掲げられた。今年の委員会の評価活動では、事業目標の達成度や事業の効率性といった従来の観点に加えて、協創の推進という視点も意識しながら評価を行った。

委員会の評価対象とする事業は、足立区民が「より安心安全で幸福な暮らし」を営む上で優先度の高い政策である「重点プロジェクト」と、事業に課題のみられる「一般事務事業」である。重点プロジェクトの評価では、昨年度の評価結果の反映度合い、事業目標の達成度及び事業の方向性が議論された。一般事務事業の評価では、主に事業の手法やその効率性を評価した。全体会で評価方針の確認を行った後、4つの分科会に分かれ、ヒアリングや現地視察により事業への理解を深めた。各分科会での合議により評価をまとめ、2度の全体会における審議を経て、ここに報告書をまとめた。

次頁の図は、今年度の評価結果の概要であ

る。各分科会の重点プロジェクトの全体評価の平均点はすべての分科会で昨年度以上の評価という良好な結果となった。個別の事業では、反映結果や達成状況に課題のある事業もあったが、前年度からの改善がみられ、全体評価の向上へ貢献した。一般事務事業の評価でも、予算計上の精度向上や事業内容のさらなる周知の必要性が指摘されたが、実施自体の見直しを求めるほどの強い課題がある事業はなかった。

分科会からの提言では、区の実施する事業内容の周知や広報の工夫、所管内での勉強会や情報共有による事業間連携の推進、町会や自治会の加入率上昇のための若者や外国人へのさらなる働きかけ、区民評価のヒアリングにおけるプレゼンテーションの工夫と対応の改善などがあげられた。

区政と多様な主体との間の、協働を超えた協創を推進する上では、それぞれの主体的な参画が不可欠であり、事業内容の「質」「効果」を十分に精査することで、「協創」が望ましい分野も明確になることが期待される。それらの分野では協創の視点からみた活動指標や成果指標に基づく評価を行うことも有効であろう。また、子どもや親、地域住民の企画段階からの主体的な参画や、区外から集まる多様な人材も協創人材として積極的に取り込んでゆければ、足立区らしい先駆的な試みとなるであろう。委員会活動を通じた P D C A サイクルを協創力で積極的にスパイラルアップさせ、様々な課題を「足立区総ぐるみ」で乗り越えてゆくことを期待する。

最後に、記録的な猛暑の中、長期間にわたる評価作業に最後までご尽力頂いた委員会のメンバー、区役所関係職員の皆様、及び評価活動を支えてくださった政策経営課・財政課職員に対して、深く感謝する。

令和元年 9 月

足立区区民評価委員会
会長 田中 隆一

というふうにまとめさせていただきまし
たけれども、何か今見てみてお気づきの点
があれば、ぜひこの場でご指摘いただ
ければと思います。よろしくお願
いいたします。いかが
がでしょうか。どのようなことでも構
いませ
るので、何かご意見があれば。

○藤後委員 的確にまとめていただき、あ
りがとうございます。内容的には全然問題
ないんですけれども、本当に些末なこと
ですが、2枚目のページの1行目、「最後
に」から始まって、途中の文章で「最
後まで」と類似の言葉が2つ入って
くるので、後半部分は「評価作業に
ご尽力頂いた」でも構わないかなと思
います。

○田中会長 どうもありがとうございます。
そのように変更したいと思
います。ありがとうございました。

ほか、いかがでしょうか。

○田島委員 一般事務事業の田島です。私
だけかもしれないんですけれども、「報
告にあたって」の1枚目の下から2行
目の「スパイラルアップ」という言葉
が私自身は個人的にも余りなじみ
がない用語でしたので。

○田中会長 ありがとうございます。そう
ですね。昨年度もそうだったんです
けれども、「報告にあたって」の
ところに用語説明はできるだけ
ないようにしようという話
だったんですけれども、そう
ですね。基本構想の審議
会でもこの「スパイラル
アップ」というのは何
なのかという話もた
くさん出てきたところ
なんですけれども、P
DCAサイクルが上
に向かってトルネード
のように上がって
いくというイメージ
なんですけれども、
確かに
おっしゃるとおり
で。ほかの委員の
皆様、

どうですか。何かいい言葉が
思いつけば。確
かにそうですね。
おっしゃると
おりだと思
います。どう
ですかね。

○明尾委員 「スパイラルアップ」という
言葉を単純に「向上」にして
いったら、その前
に「PDC Aサイ
クル」という言葉
があるので、P
DCAサイクルが
回って上が
っていくという
イメージにつ
ながるのかな
と思
いま
した。

以上です。

○田中会長 どうもありがとうございます。
そうですね。「向上させ」という
ので、多分
そちらのほう
がわかりやす
いかなと思
いますので、
そのように
変えたいと思
います。

これは実は昨年度もちょっと議論
になった「PDC Aサイ
クル」という
言葉を「報告
にあたって」の
ところで使う
というのは
実はもう
専門用語が
入っている
んじゃない
のかという
話だった
んですけ
れども、や
はり私
たちの活
動の一番
大きな特
徴はP
DCAサイ
クルの「C」
を担って
いくとい
うところ
なので、
そこはあ
えて今年
も入れて
しまった
とい
うところ
なんです
けれども、
確かに
「スパ
イラル
アップ」
のところ
は「向上」
のほう
が多
分わか
りやす
いと思
います
ので、
では、
そこ
のところ
は「委員
会活動
を通じた
PDC A
サイ
クルを
協創力
で積極
的に向
上させ、
様々な
課題を
「足立
区総ぐる
み」で
乗り越
えてゆ
くこと
を期待
する」と
変えたい
と思
います。
どうも
ありが
とうござ
います。

ほか、いかがでしょうか。

○大竹委員 一般事務事業の大竹でござ
います。2段落目の後半のほう
です。「事業
に課題の
みられる
「一般事
務事業」
である」と
いう文章
があります。
私も一般
事務事業
を選
定して
いただ
いたの
を受け
身の形
でや
った
ん
です
け
れ
ど
も、
そ
う
い
っ
た
「事
業
に
課
題
の
あ
る」と
いう
意味
で
チ
ョ
イ
ス
さ
れ
た
事
業
だ
っ

たのかなという認識がなかったんですが。済みません、職員さんの側でどういった……。

○事務局（財政担当係長） お答えいたします。基本的な考え方としては課題のあるものを中心に選んでいるところでございます。

○大竹委員 わかりました。間違いはなかったということですね。ありがとうございます。

○田中会長 どうもありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

特にご異議がないようでありましたら、今いただいた点、修正を2カ所施した上で「報告にあたって」の文案を確定ということにさせていただきたいと思っておりますけれども、それでよろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。

以上、本日のいただいた修正案、数カ所修正した上で、9月9日に私から区長に対して答申をさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

○寺井委員 ちらっと気になって、「報告にあたって」の3段目の「一般事務事業の評価でも」という下から3行目の文章なんですけれども、「事業内容のさらなる周知の必要性」と書いてくださっていて、ちょっと踏み込んで「周知の方法の工夫」、くどいか。ボリュームとしてはすごくたくさん周知をされているんだけど、私どもの議論の狙いは、ボリュームを大きくするだけではなくて、必要としているところに確実に周知をするということの必要性が強く出たので、周知の……。いい日本語がありますでしょうか。

○田中会長 「周知方法の工夫の必要性」になりますか。

○寺井委員 はい、それぐらいでしたらいいですかね。簡潔にわかりますか。では、もしよろしければ、そういうぐあいにしていただければ議論が反映されるかなと。

○田中会長 そうですね。どうもありがとう

ございます。では、そのように修正したいと思えます。

それでは、修正箇所3カ所で、まずは3段落目の一番最後の文で「一般事務事業の評価でも、予算計上の精度向上や事業内容のさらなる周知方法の工夫の必要性が指摘されたが、実施自体の見直しを求めるほどの強い課題がある事業はなかった」と変える点、あと2点目が一番最後の段落の一番最後の文章で、「委員会活動を通じたPDCAサイクルを協創力で積極的に向上させ、様々な課題を「足立区総ぐるみ」で乗り越えてゆくことを期待する」というところ、最後は、「最後に、記録的な猛暑の中、長期間にわたる評価作業にご尽力頂いた委員会のメンバー」と変更したいと思えます。この3点を変更した上でこの文案で決定ということにさせていただきます。よろしいですか。最後のチャンスですけども、大丈夫ですか。

では、この文章で確定ということにさせていただきます。どうもありがとうございました。

では、続きまして、次第の2に進んでまいりたいと思えます。「令和元年度区民評価委員会表彰について」になります。

表彰する事業につきましては、各分科会から1事業ずつ既にご選定いただいておりますので、各分科会長から選定事業とその理由を簡単にご説明いただければと思えます。まず最初にひと分科会の藤後先生からよろしく願いいたします。

○藤後委員 藤後です。よろしく願いいたします。ひと分科会では、今年度、No.17「ひとり親家庭総合支援事業」が表彰対象となりました。選定理由としましては、もうこちらに記載しておりますけれども、とても説明が丁寧で熱心に誠意もすごく感じられました。それと、課長さんが交代というか、担当者が

かわっていられたんですけれども、にもかかわらず、本当にとっても引き継ぎがなされていて、丁寧というか、スムーズな質疑応答もなさってくださいました。

それと、事前資料の量であったり内容も適切でございまして、ヒアリングの際にも、その送付していただいたものを使いながら説明をしていただいたということが選定理由として挙げられます。

以上です。

○田中会長 どうもありがとうございます。

続きまして、くらしと行財政分科会の石阪先生からお願いいたします。

○石阪副会長 くらしと行財政のほうは、こちらに書いてあるとおり、No.34「こころのちの相談支援事業」を選定しました。こちらについては、ここにも書いてあるとおり、担当課長の自殺者を減らしたいという強い思いがまず伝わってきたと。結構議論が分かれたのは、4人のメンバーがいて——3人いたのかな、2つに割れたんですね。1つは、昨年もそうだったんですが、説明が非常に丁寧で、例えばグッズとかいろいろなものを持ってきてわかりやすく説明する、これは1つ評価も高かったんですけれども、むしろこちらのほうが選定されたのは、そういった思いとか説明がしっかりしていたということ、さらに、理解をしてもらいたいという、どちらかという、資料であったりとか、そういうものにも工夫がなされていたということで、議論の末、こちらのほうにさせていただいたということになりました。

ですので、なかなか難しいんです。選定するときどっちを選ぶか。説明自体だと、恐らくほかのほうのわかりやすいところもあったと思うんですけれども、結果的にはこういう形で思いであったりとか熱意という

ころに委員の皆さんが引かれたと。さらに言えば、プラスアルファの資料提供、このあたりが理由ということになります。

以上です。

○田中会長 どうもありがとうございます。

続きまして、まちと行財政分科会の遠藤先生、よろしくお願いいいたします。

○遠藤委員 遠藤です。満を持して竹ノ塚の連続立交を今回挙げたいなということです。特にまち部門の事業については、まちに手をつけているわけですから、現地を見ないとなかなか評価は難しいところがあるんです。時間の制約があって、見に行くといっても限られるものですから、特にこの複雑な連続立体について現地説明を求めてきた。3年続けているんですけれども、本当に複雑で、鉄道って営業休止できればすぐ連続立体はできるんですけれども、一日も休めないものですから、深夜の工事だけとか仮設をつくったりとか本当に複雑なので、現地に行かないとわからないんです。というのを3年続けてもらって、少しずつまちがよくなっているというのは本当に実感できるんです。

これを表彰しちゃうと、ほかの事業が立つ瀬がないというか、では、うちも現地説明をするよということになるのでなかなか出せなかったんですけれども、3年も続けてもらっているんで今年はおこうということです。

ここの記述が150文字に限られているので何とも当たり前の記述になっていますけれども、満を持してということなんです。

○田中会長 どうもありがとうございます。

続きまして、一般事務事業見直し分科会の寺井先生からよろしくお願いいいたします。

○寺井委員 一般事務事業見直し分科会で

は「直営児童施設運営事業」——担当箇所は住区推進課なんですけれども——に対して表彰をさせていただきたいと考えました。理由としましては、まず資料を拝見して質問票をお送りするんですけれども、それに対するフィードバックが丁寧でした。ヒアリング時においても、そのときにした質問をさらに質問したり新たな質問も出たんですけれども、回答が詳細でした。具体的な数字に基づいた資料の提示があったので説明に信頼を置くことができました。

それから、2番目の点なんですけれども、評価委員からヒアリングのときにさまざまな質問をさせていただいたんですけれども、それに対しても丁寧な対応があって、事業を改善できそうな点についてはそれを取り込みたいという姿勢がうかがえました。ヒアリングなんですけれども、コミュニケーションができていた感じがありましたので、その点からも表彰させていただきたいと思いました。

以上です。

○田中会長 どうもありがとうございました。今回ご選定いただいた事業は全てとても素晴らしい事業で、あと今年度も各分科会が事前にどの事業を選定するのかということをご議論いただいているということですので、区民委員の皆様も、なぜこの事業が選ばれたのかということは多分わかると思うんですけれども、何かつけ足しておきたいこととかがあれば、せつかくの機会ですので。

○三石委員 遠藤先生からお話があったのですが、それに加えて、やはり現地に役所のほうから時間を割いて本当に懇切丁寧にご説明をいただいたということで、施設見学だけではなくて、幾つかの部署の方々が集って施設見学と説明をしてくださったということで、この現地見学をしたということ以

上に、本当に親身な説明をしていただいたことで私たちは推薦をさせていただいたところをつけ加えさせていただきたいと思います。

○田中会長 どうもありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

○藤澤委員 暮らし分科会の藤澤です。今回の表彰のほう、先生からもありましたが、私は2年目なんですけど、昨年も私はこの事業を推薦させていただいたんですけど、去年は協議の末、違うところになって、今年はやっここが表彰できるという思いはあるんですけれども、ここの課長さんの一番すごいところは、ご自身の専門もあるんですけど、本当にこの事業に対する思いというか、本当にどうにかしたいという課題への解決意欲はすごく、本当に一言ご質問すると、3つのことを懇切丁寧に回答いただけるぐらいすごいスピーディーな言葉のキャッチボールを含め、心のキャッチボールも一緒にあったかなと思いました。

私のイメージは、お役所というところで結構おかたく、なかなかコミュニケーションと思う点もありましたが、区民評価委員会、またこのヒアリングを通じてそうではないという一面が見られたところで、今回この「こころといのちの相談支援事業」が表彰できたことは個人的にもよかったなと思います。これをつけ加えさせていただきます。ありがとうございます。

○田中会長 どうもありがとうございます。この表彰制度は区民評価委員会の活動への参画の度合いというところが基本的な表彰の理由として選定の基準として考えていたわけなんですけれども、遠藤先生にまとめていただいたところにもございましたように、事業への積極性というものプレゼンテーション力とかということでもあらわれてくる

ということなので、非常に事業を推進したいという強い思いのところと、あと区民評価委員会の活動への参画というところが実は密接に関連しているということが今の藤澤委員からの補足説明でもよくわかったと思います。どうもありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

もし特段に補足がないようでありましたならば、この4つの事業が今年度の区民評価委員会賞の受賞事業ということにしたいと思えます。

この表彰自体は今年度は12月6日金曜日の行政評価報告会という場で今年度の評価活動の結果とあわせて表彰を行うということで、昨年度参加された方はご存じかと思うんですけども、舞台の上で私からインタビューをさせていただく形になるかと思えますので、どうぞお楽しみにしていただければと思います。

○石阪副会長 1点いいですか。どなたが登壇されるんですか。例えば恐らくうちのメンバーの皆さんは課長さんに来てほしいという思いが強いんじゃないですかね。その辺、どなたが登壇されるのかというのは今の時点ではわからないですか。

○田中会長 それについて事務局のほうで何か案はございますか。

○事務局（政策経営担当） 日程の調整はさせていただきますけれども、やはり基本的には所管の課長に出席いただけるように依頼はさせていただきたいと思っております。

○田中会長 どうもありがとうございます。表彰式は12月6日、行政評価報告会の場ということになります。

以上、表彰事業についてでございますけれども、そのほかに何かこの事業自体についてご意見等があれば、この場でお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

○遠藤委員 これは表彰は個別の事業が対象になっているわけですが、それはそうなんです、私は今回、これは私の本当に個人的な、産業経済部の事業を全部表彰したいぐらいだったんですよ。産業経済部という取り組み、これはちょっと見直すところがあって、つまり、部長のもとにいろいろフィードバックとかアンケートでフォローアップするとか、そのようところが非常に明確に出ていたんです。それぞれのプロジェクトに関してはいい点もあれば余りというのもあったんですけども、部としてがらっと変わったということもあったんです。これにはなしはないかもしれません。

○田中会長 どうもありがとうございます。この表彰事業は職員力を高めるということが究極の目標ですので、最終的には職員を対象とする表彰ということになると思えます。現在では区民評価委員会の活動の一環としてやっているということですので、その際には事業単位というもので各活動を見ていくということにはなっているわけですが、やはり職員自体、また部自体というものを表彰の対象としていくということも十分理にかなった考え方だと思いますので、来年度以降、そういった可能性も含めてまた少し検討していきたいと思えます。どうもありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

特にご意見等がないということであれば、これで表彰制度についての議論を締めたいと思えます。

以上をもちまして全ての議事は終了ということになります。本日をもってほぼ実質的な活動が終了となりますので、委員の皆様から今年度の区民評価委員会に関してご意見やご感想というものがもしございましたら、

なくても一言ずつ何か言っていたらと思えますけれども、いかがでしょうか。一言ずつぜひこの機会に、いい機会ですので、今年度の評価活動を振り返って率直なご意見、ご感想をお聞かせいただければと思えます。

それでは、どういう順番でいきましょうか。公募委員の方から順番で、では、長谷川委員からよろしくお願ひします。

○長谷川委員 3年目をやらせていただいて、今まで一般事務事業を担当していましたけれども、改めて重点プロジェクトということで、また自分の希望でもあったまちと行財政ということで非常に私自身も勉強になった今年の評価委員会だったな、このように思っていますし、一言自分の考え方とよく合ってきたかなというのは、今日「報告にあたって」を書いていただきましたけれども、その中で書かれているとおり、協創ということが推進を、具体的に多様な主体との間と区、庁舎を含めて始まってきたなど、これこそ期待される形になりつつあるということで、さらに来年度も期待をしながらやらせていただければ、このように思っております。

ありがとうございました。

○三石委員 まちと行財政の三石です。4年目を迎えて、やはり4年やってみると、その各取り組みの部署でのまさしくPDC Aサイクルの回し方が見えてきて、私は先ほど「報告にあたって」の「スパイラルアップ」がやはりいいなという思いはあります。でも、一般の方々はちょっとわかりづらい。このようにスパイラルにアップしていく、そこを目指すところで、今の話し合いの表彰のところで、やはり人でしょうというお話がありました。くらしと行財政で課長さんを中心として熱い思い、それはやはり大事だなと、それが改善に、PDC Aのチェック、アクションに

つながっていくんじゃないかな、そういう意欲を持っていただく手助けを——手助けと言うとちょっと生意気かもしれないのですが、その一助になれば、さらによりよい足立区になっていくんじゃないかなというのを感じた4年間でした。

ありがとうございました。

○松田委員 まち分科会の松田です。私も2年目になりまして、今年は自分の中で去年との比較というか、自分なりの2年間まち分科会の事業を見ていての経年変化みたいなものも見られて、とても興味深い勉強になった1年間だったなと思っています。

その中で特に印象に残っているのが、さっき遠藤先生もおっしゃっていたんですけども、うちの分科会的には産業経済部の部長さんのリーダーシップが多分みんなとても印象に残っていると思うんですけども、個別のヒアリングが始まる前の部長さんからの事前レクでも、ヒアリングにすごく効果的につながるオーバービューというか、概要の説明があったり、それもすごくわかりやすく、私なんかは僭越ながら「すごいですね」とか言っちゃったぐらいなんですけれども、そんなすごくわかりやすいレクチャーがあったり、あとは個別のヒアリングでも、ちょっと担当の方の言葉が足りない場合は、すぐ後ろから部長さんの言葉が飛んできたりみたいな感じで、強烈なリーダーシップを感じたんですけども、そんな感じで、こういう新しいリーダーのもとですごく強力に事業を推進されているというのはすごく心強いなと思いました。

こちらの部ではずっと続いていた「あだちメッセ」という商談会みたいなものがあるんですけども、こちらが時代にそぐわないという言葉がきついかもしれないんですけども、一旦見直してみたいな、今年はどうや

らないとなったんですけれども、これはもう個人的にすごく印象に残っていて、お役所の仕事でそういうのをやめるということを決断できるんだみたいなのが感動したというか、私もそれはもう費用対効果に見合わないんじゃないかなと思っても、やめるところまで決断できるというのがすごいと思ひまして、そういう時代に即した判断をどんどん進めていって、よりよい事業を進めていただきたいなと強く感じたというか、済みません、全体の感想というか、産業経済部への熱いエールになってしまったんですけれども、とても勉強になったなと思いました。済みません、そんな感じでいい1年間なり2年間でした。

以上です。

○田中会長 どうもありがとうございます。
○藤本委員 2年目ですが、ひと分科会の藤本です。去年は事業の一つ一つを理解するのに必死だったんですけれども、今年は事業の説明以外にも広報の方に全体の説明もしていただいて、事業一つ一つの周知という点もピックアップしながら考えていけたと思います。一つ一つ本当に事業の方々は皆さんすばらしいことをやっていて、もっと周知できるといいのになと思ひながらも、それが足立区全体として足立区によさとして世の中にPRできるといいと思ひたので、それをさらに区の方々には頑張ってもらいたいと思ひます。

また、個人的には子どもも今預けているんですけれども、今年は「ママ、お仕事行っていらっしやい」と快く送り出してくれて、すごく気持ちよくこの活動ができたと思ひます。

どうもありがとうございました。

○中島委員 ひと分科会の中島です。私はくらしのほうを4年間務めさせていただきまして、今回初めてひと分科会ということでは

ごく違いを感じました。くらしの場合は実際自分自身も受けているサービスなどがあるんですけれども、ひとの場合は、学校関係ですとかお子様のことですと不登校ですとか、ちょっと離れた部分のこともありましたし、実際その担当の方々も、直接お子さんに何かをとということではなく、間に立っていることが多かったので、ちょっと遠慮みたいな感じを感じてしまって、ほかの分科会から結構熱意とかと出ていたんですけれども、もう少しそのあたりを感じられたらよかったかなと思ひました。

今回は評価委員としてはベテランにならなくちゃいけないんですけれども、勉強することが多くて、来年はもう少ししっかりやりたいなと思ひました。

ありがとうございました。

○藤澤委員 くらし分科会の藤澤です。私は今年2年目で、やはり去年は本当に何もわからないところで、分科会の先輩方、先生から助けられて、今年2年目ということで、今までと違う目線で見られたというところがありました。個人的に評価委員はすごく楽しいと2年を通して感じられていて、自分の過ごしている区がどういうことをして、どんなことをやっているかというのを実際に聞ける。なおかつ、それに対してよくなるような考えを評価として伝えられるというのはなかなかできることではないかなと感じました。

正直私の周りの同世代の20代に言うと、「何それ、何その面倒くさい」だとかすごい言われてしまって、何でそんなことを言うんだろうとすごく感じるんですが、もっとこういういいものというか、本当に自分が出ること勉強になり、なおかつ自分の住んでいるところがよりよくなるものというところへの参加に意欲を持ってもらえるように自分

も勧めたいと思いますし、なかなか「あだち広報」を見ていないかなという印象もあるので、もっとこの区民評価委員自体を知ってもらって、本当に多様な人材が参加してよりよくしていけるようになればいいのかなと思いますので、私もまた機会があれば参加をしていきたいなと思っております。

2年間ありがとうございました。

○明尾委員　くらしと行財政分科会の明尾と申します。今年は1年目ということだったんですが、ちょっと個人的な話になるんですけども、私は主人が足立区育ちで、足立区のことを大好きだったんですね。それで、主人が大好きな足立区ってどんなところなんだろうなと思いつつながら、8年目で足立区で過ごしているんですけども、今回いろいろ勉強させていただいて、特にくらしと行財政、防犯カメラのシールがいろいろなところに張ってあるというのは今回事業の方から説明いただいて、まちを歩いていても、ここにも防犯カメラが、ここにも防犯カメラがとすごく気づくことがいっぱいあって、足立区はすごく守ってもらっているんだなというのを改めて感じました。本当に自分も足立区の見方が、今までよりももっと好きになりまして、友人とかにもいろいろ伝えていきたいなと思っています。

今回1年目ということで自分の事業をしっかり読み込むことができなかつたんですけども、ほかの分科会の事業もどんなことをされているんだろうなというのをまた重点プロジェクトとかばらばら見ながら勉強していきたいなと思っています。

ありがとうございました。

○庄子委員　くらしの分科会の庄子と申します。今期から委員会に携わらせていただきまして、活動して、シンプルに申しますと、とても楽しくて大変感銘を受けました。今ま

でまちでポスターですとか、あと広報紙のワード、言葉でしかなかった事業自体が、委員会の活動を通じて職員の方々の熱意を感じることができたり、あとは事業の経緯や内容を知ることができて、より区政について理解や知識を深めることができたと思います。

もちろん自分の担当の課の事業はより深めることができたんですけども、今回の報告書の前回のとき、ひと分科会で「国連子どもの権利委員会」という言葉が報告書に出てきたんですけども、国連で子どもの権利委員会って何だろうとすごい興味が湧きまして、帰ってからパソコンで調べたりしたんですけども、そうやって今まで自分が全く知ることがなかった分野に興味を湧いて、国連って何だろうとか、ユニセフって何だろうと、恥ずかしながら余り知識がなかつたんですけども、それでとても興味が湧いていっぱい調べて、自分でそういった子どもに関する職につきたいと思うほど影響を受けてしまったんですね。

なので、本来なら区民側の意見で区政による影響を与えていきたいと思うんですけども、今回私の人生に影響を与えるぐらい、大げさに言うと、それぐらいいろいろな勉強になった場だったので、来期はまた貢献できるように頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上です。

○田島委員　一般事務事業の田島です。私は一般事務事業分科会は2年目で、区民評価委員としては4年目になります。一般事務事業では、毎年なんですけれども、単年度でさまざまな事業を見ることができまして、自分とはかわりのない事業で、こんな事業があったんだという新たな発見が毎年ありました。対象者は少なくとも、その対象者のために事業を継続していく事業だったりとか、足立区

の区民に寄り添う姿勢というのをすごく今回感じることができました。

毎年なんですけれども、私、調書が自分ではわかりづらかったりするので、事前質問をかなり今年も100以上出してしまいまして、それでも本当に皆さん説明を細かくしてくださったりとか表をつくってくださったりとか、本当によくしてくださって、この場をおかりしまして感謝を申し上げたいと思います。

また、4年目ですので、自分の意見が事業に反映する姿を見ることができてすごく感銘を受けた1年でした。

ありがとうございました。

○大竹委員 一般事務事業の大竹でございます。何回も発言しているので、ここで一言も何もないんですけれども、改めまして、今年1年目ということで、まずこの評価委員会の全容が今ようやく何となく見えてきたという感じで、担当職員さんとかにもいろいろご迷惑をかけてしまったこともあったんですけれども、田島さんとは逆に、私は今までの足立区生活の中で今回評価させていただいた事業は、実はかつてNPOの活動をやっていて関係で、かなり深くだとか、かなり近い部分でかかわっていたことがあって、その事業者の立場でかかわっていたときに、変な言い方ですけども、区は敵みたいな——敵とは思っていないんですが、同志ですね。でも、いい意味でかなりがんがん意見を出し合ったりなんていうこともさせていただいてきたんですが、このたび一般区民の立場でまたかかわらせていただき、今まで事業者としてやっていたときにも、もちろん職員の方々はとても大変なご苦労というか、大変なことを一生懸命尽力して区民のためにしていただいているんだなというのを感じましたけれども、今回改めてまた全然別の視点で

の資料を見させていただいたりということもあって、本当にありがたいなと思っております。

先ほどの方にもありましたけれども、ただ、周辺の人にこういったことを今評価に出ているのでというお話をすると、「うわあ、何かすごく大変そう」という反応が一般の人からは多く言われてしまうんですけれども、ただ、どれも普通に生活している中で区のこういった制度、事業というのはほとんどの人たちが実は関係していることだと思っているので、今回私がこうやって評価委員としていろいろ感じたことを、今度は私が一区民の立場で、横のつながりの中で区のことに対してもっと好意的にというか、自分たちの問題として、問題と言うと重くなっちゃうんですけれども、自分たちのありがたい制度というか、事業がこんなにあるんだよということを一区民の立場で今度は伝えていくというのが私の中で役割だなと思いました。

ありがとうございました。

○村田委員 一般事務事業見直しの村田です。今年は分科会長がかわったし、メンバーも一部かわったし、財政課の担当者もかわったということで、どのようにまとまるのかなと、非常に肩に力が入って十分に発言ができなかったです。（笑）笑わないでください。でも、おかげさまでとにかくまとまりましたので、また来年はもうちょっと肩の力が抜けるので、少し発言しようかなと思います。

1年間ありがとうございました。

○田中会長 どうもありがとうございました。

○藤後委員 1年間ありがとうございました。スタートのときに田中会長から、区民評価を通して区政が変わっていくことをぜひ皆さん実感してくださいというお話をされたんですけれども、とてもそれが印象的でし

た。私自身もやりながら、本当に変わっていくということを実感するぐらい足立区の区民評価というのは本当に素晴らしいものだと思います。

ひと分科会は私の専門ともすごく近いので、とても一つ一つの事業に関して興味がございまして、本当に一つ一つなかなか他区ではまねできないような内容だと思っています。

私自身、かかわるにつれてどんどん足立区のファンに——報告書には厳しいことも書いていますけれども、でも、本当にファンになっておりまして、授業の中でも自然と足立区のことを学生に伝えることも多くなってきました。

また、未来大に勤めていますので、未来大は通信もあるんです。ですので、全国の学生がスクーリングなどで集まってくるんです。その際にはその学生さんに対して、「足立区ってすごいんですよ」とか、泊まっているなら、温泉じゃないですけども、「お風呂もいいですよ」とかこちらも広報するということが増えてきています。

また、仕事上、全国に行ったりとか、ほかの市区町村での評価というか、委員会にもかかわりますので、そちらでもやはり足立区のことをお話する機会が増えていきます。ですので、私自身ももっと知りたいというか、では、具体的にどんなことをやっているのかということを見たいという思いがあり、今年度も鋸南ですか、中1合宿に日曜日、田中会長とともに行ってまいりました。素晴らしい、まず鋸南も素晴らしいんですけども、実際に見て、こんな感じで1対1対応をしてくれているんだということを実感しました。例えば書面上で見ると、学力だけのためという感じも受けるんですけども、実際拝見させていただくと、もちろん学力の向上はなさ

れています。と同時に、先生方と1対1で生徒さんが交わるということで、先生への信頼というか、大人に対する信頼がすごくあそこで培われるんだろうなという実感をしました。

と同時に、先生方の力もつくんですよ。多くの先生方の前で授業をしたりとか、わからない子に対して1対1でどう教えればいいのかという教員の資質向上にもすごくつながっているんだということを実感しました。

これを例えば区民評価に置きかえますと、区民評価に参加して下さっている皆さん方が区民力というか、市民力が多分すごく高まっていますので、それが今度どのように皆さん方の生活の中に生かされてくるのかなというところにも興味が湧いている次第でございます。

来年度もご縁がありましたら頑張らせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○田中会長 それでは、石阪先生、お願いします。

○石阪副会長 私、何年ぐらいやっているかな、6～7年やっていると思うんですけども、今回くらしと行財政に入らせてもらって、ちょっと感じたのが、この部会、多くの事業は、1つは区として絶対にやらなければいけない基礎的なインフラであったりとかそういう部分、プラス、もっと区民の自主性とか自発的な動きを盛り上げる部分という2つ入っていると思うんですが、やはり区の職員さんは、これは足立区の伝統なのかもしれませんけれども、区としてサービスを職員として一生懸命やるということは皆さん得意なんですよ。自分の与えられた職務をしっかりやるということは得意なんです。区民のやる気とか、それこそモチベーションを上げるためのコーディネーターとしての役割が

いま一つ足立区は弱いかなと。

僕もほかの自治体をいろいろ見させてもらうんですけども、皆さん職員さんもしっかりしていらっしゃる。自分の与えられた職務についてはしっかりやるというところは僕もわかったんですが、これからの時代、特に「協創」という概念を育てていくためには、やはり区民のやる気をどうやって上げて、むしろ区民がやってもらわなきゃいけない。

よく組織なんかでもそうですけれども、組織がしっかりしている、上がしっかりしたリーダーがいて、しっかりした組織があるところは意外に自主性が育たないんですよね。ところが、いいかげんな人が結構やったりすると、しょうがないな、この人いいかげんだから僕がしっかりしなきゃということで自分でやったりするようなどころもあるので、手を抜けと言っているわけでは全然ないんですけども、あの区長がいらっしゃるその下ですからしょうがないのかもしれないけれども、もうちょっと人と人とをくっつけようかな、楽しんでやろうとか、あるいは連携させようみたいな、職員としての職務というよりは、人としての何か遊びとか、あるいは将来を見据えた動きみたいなものが職員にも求められるのかな。

そういう意味では、今回の区民評価の1つの成果は、このくらしと行財政に参加した3人のお話を聞いていて、自分が逆に区民としてやらなきゃいけないこととか関心力を高めてもらった、こういうのが結構大事なんですよね。単に自分のやっていることを説明する、それを聞いてもらうのではなくて、区民の皆さんにも一緒にやろうよとか、今後こういうことをやってよという動き、働きかけという意味では、この評価委員会はすごく意味があって、皆さんのお話を聞いていて、単に足立区に住んでいるというだけではなくて、

自分も何かしなきゃいけないと思った、この変化が実は評価の中での一番のポイントかなと。

ですので、そういう意味で言うと、先ほどから言っているように、例えば足立区で言うと、自治会とかNPOがなかなか育っていかない。これは何でかという、どうしても区が全部丸抱えでやってしまうからなんですよね。本来任意団体であるとかNPO、あるいはさまざまな自主的な組織は自分たちがやらなきゃいけないのに、区がお金を出してくれる、人をつけてくれるから、それにある意味で安住して組織が育たない面もあるので、時には突き放すとか、やる気のあるところにインセンティブを与えて、そこだけを支援するとか、いろいろな仕掛けがあってもいいのかな。

僕も一貫してそういうつもりでこの評価委員会、結構このくらしと行財政では見てきたので、徐々に変わってきているところは進歩だと思うんですが、もう一つそのコーディネート力であったり、あるいは協創力、こういうところに磨きをつけてもらえると、区民評価を通じて庁内も変わる、あるいは区民も変わるというほうに行くのかなと思いました。恐らくまだやるかもしれませんけれども、そのときもそういう気持ちを持ってやっていきたいと思います。

ありがとうございました。

○田中会長 遠藤先生、お願いいたします。
○遠藤委員 ここにおられるほかの先生ほどじゃないにしても、私もいろいろな公共団体さんの委員会なんかに出て、どうしても比較するんですけども、本当に言い放してその後何もしないようなところもあれば、いろいろなんですよね。ここの区民評価は実効性がありますね。今年も区民委員の皆さんのおかげで充実した評価ができたかなと思っ

ております。ありがとうございました。

先ほど産業経済部の話もしたし、連続立交の話もしちゃったのでネタ切れかなと。1つつけ加えさせていただきませうけれども、「よそ者」はおもしろかったです。これは去年松田さんの言葉をそのまま使わせてもらって「広島カープ」なんて言っていたんですけれども。

何が言いたいかという、その前に、私は足立区とのかかわりを申し上げますと、学生とき4年間北千住に下宿して、当時「3年B組金八先生」が始まったときです。足立じゅうの校舎のガラスが全部割れていたと思いますけれども、それで塾でしか勉強ができない状態。それで塾で教えていたり、それから、就職しても当分の間、竹ノ塚あたりに住んでいたり、仕事は足立区のプロジェクトに若干かかわったりして、再開発ですけれども、縁はあるんです。縁はあるんだけど、やはりよそ者なんですよね。

よそ者目線というのはあるんだろうな。足立区の外にファンは多いです。それは大事にしていいかなとか、そういうよそ者も入ってきて迎え入れられる区、こういうところも非常に魅力があるんだな、そういう見方をいつもしているものですから、去年は広島カープで人を育てるように、ジャイアンツじゃないよと言ったり、今年は「よそ者」としながらやったかなと、そういう見方もあるんだというところをちょっとだけ覚えておいていただけたらいいかなと思いました。

ありがとうございました。

○田中会長 それでは、寺井先生、お願いいたします。

○寺井委員 一般事務事業を担当させていただきました寺井です。私は1年目で、皆さんもご存じのとおり、一般事務事業は多岐にわたってございまして、資料を送っていただいた

ときも、11事業が非常にバラエティに富んでいて、よく制度を理解するまでに時間がかかりましたし、まだ十分に理解できていないところもあるのかもしれない。

区に参りましてほかの評価委員の方々の議論に参加させていただくうちに徐々に理解が深まっていったという感じです。本当にほかの3人の区民評価委員の方々が、英語を使うとまた叱られるかもしれませんが、プロフェッショナルというか、非常に区に対する関心が深いのもそうなんですけれども、区政に対する知識も非常に豊かで、それぞれ皆さんのバックグラウンドが違うとは思っているんですけれども、例えば一般事務事業の評価調書を見ていただくとわかるように、非常にアイデアがいっぱい出てきて、それがすごく刺激的でした。

「協創」という言葉を理解するのに私も時間がかかりまして、初年度なので一度報告書案を書いているときに高田さんに見ていただいたら、「先生、協創の意味を勘違いしている」と言われ、また調べ直したりして、そうすると、どうも緩やかな結びつきなんだというところが経済学をがっちり勉強してきた私にはなかなか難しく感じました。

長くなってまいりましたが、1つ議論になった、勉強になったなと思ったのは、災害備蓄を誰がずっと管理するかという議論のところ、将来的には委託を考えているという案を区が出してくださったときにほかの評価委員の方から、そこそやはり協創を生かせるところなんじゃないか。例えば町会だったりNPOさんだったりとうまく結びつきながらやれると。緩やかな結びつきなので成果がどうしてもばらつくんだと思うんです。だから、かちつとしたこういう成果が確実に期待できるということはないのかもしれないけれども、そこは例えばフローチャート

を張ったりとかして区民の方にお任せすることで、1つ印象的だったのが、いざ災害になったときに、予行演習をしているようなものだからすごく迅速に対応できるんじゃないかという意見が出てきて、そこら辺は第三者目線で非常におもしろい意見だなと思っています。

田中会長の最初のところにも、この区民評価委員会が協創をスパイラルアップさせる原動力になるんだということを書かれていたので、やはり区民目線でいろいろ出してきたおもしろいアイデアこそが本当に、それがないと逆に言うとスパイラルアップしないんじゃないかな、それほど協創というのは難しいんだと思うんです。だからこそこの区民評価委員会の役割は非常に大きいなと思いました。

本当に今年度お世話になったのと、来年度もお世話になると思いますけれども、またどうぞよろしく願いいたします。

○田中会長 どうもありがとうございます。私のほうからも一言。先ほど「報告にあたって」のところで朗読させていただきましたので、今年度の評価に関しては私のまとめはあそこにあるわけですが、それとまた別の感想を述べさせていただきますと、私がこの足立区の区民評価委員会に携わるようになって今年度で8年目でありまして、会長職は4年目ということになります。その8年という長いように感じるんですけども、私にとっては結構あっという間な感じでした、その8年、また長いように感じるんですけども、区民評価委員会の歴史の中では実はそれは半分程度ということですので、それよりももっと長い歴史を持っているのがこの区民評価委員会の活動ということになっております。

この長い間区民評価委員会の活動ができ

ているというのは、先ほど遠藤先生から実効性がある評価活動だとおっしゃっていただいたんですけども、やはり役に立つ、やっけていてよかったというものが、区民の側でもそうですし、足立区役所のほうでもそのような思いがお互いに持てて初めてこういった継続的な活動ができるようになってきていると思いますので、そういう意味で本当に私たちの評価が来年度以降の足立区の政策に対して目に見える形で影響を与えていくというのがこれからまたもっと見えてきますので、皆さん、どうぞお楽しみにしていただければと思います。

足立区区民評価委員会はP D C Aサイクルを回すというのが一番重要なところで、その中のチェックですよね。「C」のところを我々が担っていたわけですが、それを超えて、先ほどの石阪先生のお話にもありましたように、協創という視点をこれからどんどん取り入れていかないといけない。その上では、やはりコーディネーション力というものも足立区の皆さん、お役所の皆さんも積極的に意識しながら醸成されていくということをしていただけるといいのではないかと。そのためのヒントが恐らく区民評価委員会の活動の中でたくさんありますし、遠藤先生の報告書にもありましたように、ありとあらゆる事業が実は協創の種みたいなものですので、そういった協創といった視点から事業をもう一度見直してみるとということも非常に有効なのではないかと思います。

あと、私たちは今年度、区民評価委員としての活動をやったわけですが、これで評価活動は終わりというわけではありませんで、次に皆さんのミッションは何かというと、今年やったことを皆さんの周りの方に伝えていただくということが必要になってまいります。必要というか、多分やりたくなっ

てくる。こんなことがあったんだよというのを周りの人にしゃべりたくなると思いますが、ぜひ積極的に言葉を広げていっていただければと思います。

私は経済学者で、学会でそういった足立区に関するいろいろな研究を発信するような機会もありますので、そこで積極的にやっていくのと、あと通常コミュニケーションをとる周りの方々とも足立区でこんなことが起きているんだということ共有していきたいと思っておりますので、皆さんもぜひ積極的に言葉を、これも周知の一環と考えて、ぜひ工夫してやってみてください。

報告書をまとめる会議としては今回が最後ということですが、この後にまだ行政評価報告会と経営協議会、区長を含めた会議、懇談会というものがありますので、また皆さんのお元気な顔にその場でお目にかかることができればと思っております。

これからまだ暑い日がまた戻ってくるという天気予報もありますけれども、どうかお体にはお気をつけてご自愛いただければと思います。

最後に、区民評価委員会の皆様と、あと政策経営課と財政課の皆様には本当に今年度の評価活動を支えていただきまして、どうもありがとうございました。お礼を申し上げます。

以上で次第にある3の集合写真の撮影以外は終わりですけれども、事務局のほうで何かございますでしょうか。

○事務局（政策経営課長） 政策経営課長でございます。委員の皆様は約半年間にわたりまして行政評価にご尽力いただきまして、まことにありがとうございました。皆様からいただきました貴重なご意見やご提言につきましては今後の区政に活かしてまいりますので、本当によろしく願いいたします。

最後に担当よりお知らせがございます。

○事務局（政策経営担当係長） では、長時間にわたり会議にご協力いただきまして、ありがとうございました。おかげさまでもちまして報告書の案をまとめることができましたので製本の作業をさせていただきたいと思っております。

最後、区民委員の皆様からも区民評価委員になって楽しかったとか勉強になったというありがたいお言葉もいただきましたけれども、私たちが区民評価についてもっともっと広く周知していく努力をしないとイケないと思うところもあるんですけども、会長もおっしゃったとおり、実際に活動されている委員の言葉というのはやはり強いと思っておりますので、ぜひともこういった活動について強く広めていただいて、あわよくばまた新たな方がこの場に参画をしていただけるように促していただけると私もありがたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

最後、済みませんけれども、こちらのほうで写真撮影をさせていただきたいと思っております。簡単に設営いたしますので、お声がけします。少々お待ちいただいて、写真撮影が終了しましたら、その場でそのまま流れ解散といたしますか、終了とさせていただきますので、よろしく願いいたします。

では、本日はどうもありがとうございました。